



能登やさしいこめづくり情報

令和5年6月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

早生穂肥編

穂肥の適期・適量施用で、収量・品質を確保!!

1 生育概況と当面の管理

- ・ 本年は、5月の田植え以降、気温は平年並み(平年比+0.5℃)に推移し、気象庁による1か月予報(6/22発表)では今後暑くなる予報となっておりますので、今後、生育が早まる可能性があります。
- ・ 中干しは、早生品種では6月25日頃まで、コシヒカリでは7月5日頃まで、ひやくまん穀では7月15日頃まで継続し、稲体の健全化を図りましょう。
- ・ 紋枯病の発生が多いと予報(県農研:6/15発表)されており、前年発生圃場では防除を実施ください。
- ・ 今後は、①「適切な穂肥の施用」、②「出穂まで1か月間の飽水管理」、③「3回の仕上げ防除の徹底」に努めて下さい。

【参考】 生育調査結果(6月19日現在)

品 種	草 丈 (cm)			㎡当たり茎数(本/㎡)			株当たり茎数(本/株)			葉 齢 (枚)		
	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%	本年	前年%	平年%
コシヒカリ	40.2cm	121%	105%	435本	116%	99%	24.4本	120%	105%	9.0枚	110%	97%
ゆめみづほ	38.5cm	118%	108%	514本	114%	114%	28.3本	114%	115%	9.1枚	105%	94%
ひやくまん穀	40.4cm	123%	111%	528本	138%	155%	28.8本	138%	156%	9.1枚	108%	107%

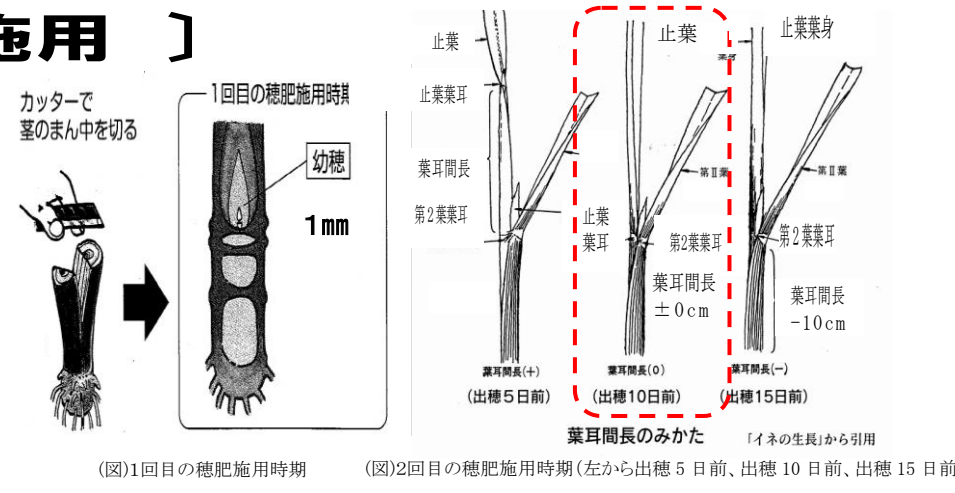
2 出穂予測と穂肥時期の目安 [適切な穂肥の施用]

- ・ 生育観測圃場における幼穂長から予想される出穂期(6/23時点)は、「ゆめみづほ」が7月17日頃(平年より早い)です。

分施肥体系での穂肥

- ・ 生育過剰なほ場や葉色が濃いほ場では、1回目の穂肥時期は遅らせず、量のみを減らして施用してください。
- ・ 1回目穂肥が施用出来なかった場合でも、2回目の時期の穂肥は必ず施用して下さい(稲体の消耗を防ぎ登熟向上を図る)。

<注意> 追肥を1回目の時期の1回のみで終わらせないこと



品 種 名	出穂予想	回数	肥料名	時期(出穂前日数)	施用量	備 考
ゆめみづほ	7月17日	1回目	BB 追肥 550号	6月24日頃(23日前)	15kg/10a	1回目の穂肥施用の基準は、幼穂長 1mm(上図参照)、葉色板 4.0
		2回目	BB 追肥 550号	7月7日頃(10日前)	20kg/10a	2回目の穂肥施用時期は、葉耳間長±0cm(上図参照)

※葉色が濃い場合(葉色板 4.0 以上)は穂肥1回目の施用量を3割程度減らして施用して下さい。

基肥一発肥料体系での追加穂肥

★ 暑さに負けない! 「ゆめみづほ」登熟向上対策!! ★

- ・ 基肥一発肥料では、基本的には追肥の必要はありませんが、本年は向こう3か月の気温は平年並か高いと予報(6/20発表)されており、①登熟期の高温による栄養凋落の防止 と ②収量の向上のため、以下を目安に上乘せ追肥に取り組んでみましょう。

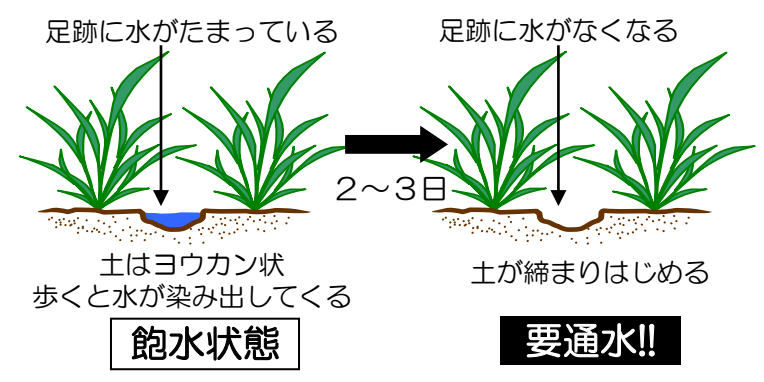
品 種 名	追加穂肥の判断		追加穂肥の施用		
	判断時期(出穂前日数)	判断基準(葉色)	施用時期(出穂前日数)	肥料名	施用量
ゆめみづほ	7月2日頃(15日前) (幼穂長 40mm・葉耳間長-10cm)	葉色板5.0未満 (葉色が濃い場合は施用しない)	7月7日頃(10日前) (葉耳間長±0cm)	BB 追肥 550号	7~10kg/10a

3 中干し終了後の水管理 [出穂まで1か月間の飽水管理]

- ・ 登熟期間の水稻の活力を維持するためには、根を健全に保つことが重要です。そのためには、適期の中干しに加え、中干し以降の水管理が大きく影響します。きめ細やかな水管理により登熟を向上させ、未熟粒の発生を防ぎましょう。

飽水管理の徹底

幼穂形成期(早生品種 6月25日、コシヒカリ 7月5日、ひやくまん穀 7月15日)以降は、新しい根の発生が少なくなるため、中干し終了後は2~3日間隔を目安に通水し、飽水状態(右図)を保ち、根の活力維持を図りましょう。



- 1 通水は出来るだけ朝方か夕方に行いましょう(水田内の温度を上げない)。
 - 2 集落や地域ぐるみで、計画的な水利用に努めましょう。
- 【飽水管理】とは・・・ほ場表面に水はないが、足を踏み入ると水が染み出てくるような水分状態を維持する水管理のことです。

※ 台風通過後のフェーン等による異常高温にさらされる場合は一時的に湛水し、稲体を守りましょう。現象終了後は速やかに飽水管理に戻して下さい。

4 斑点米の発生防止対策 [畦畔除草・3回防除の推進]

近年、中能登管内の斑点米による落等が増えております(R4年産:3.2%、R3年産:1.8%、R2年産:10.8%)。また、大型で飛翔性のクモヘリカメムシが多発しており、斑点米だけではなく、米粒を不稔にさせて減収させる要因としても考えられております。そのため、**畦畔除草と3回の仕上げ防除**を実施し、収量も品質も良いお米に仕上げましょう。

< 斑点米カメムシ類 >

【飛翔性】

【歩行性】



◆ 除草 ◆

(1) 畦畔除草

斑点米カメムシの生息密度を下げるため、7月10日頃までに地域・集落ぐるみで**畦畔や農道等の一斉仕上げ除草**を実施しましょう。

< 一斉草刈り強化週間は7月4日(火)~7月10日(月) >

◎ 7月中旬以降の除草は、斑点米カメムシを本田に追い込むこととなるので、基本的には行わないでください。

(※頻繁に除草している場合に限り、継続除草は可能。) やむを得ず、除草する場合は、**基幹防除の直前に行ってください。**

(2) 本田除草

本田に雑草の取りこぼしがあるとカメムシを呼び込むこととなるので、収穫前日数に注意しながら本田除草剤を施用しましょう。

※ 早生品種の目安 : 収穫30日前まで(クインチャー等) →7月16日頃まで

収穫45日前まで(ロイヤント、アトリ等) →7月1日頃まで

ギリギリに本田除草剤を使用した場合は、**収穫前日数が確実に経過してから収穫**してください。

◆ 3回防除 ◆

基幹防除では、**出穂始めと、出穂期の7日後(穂揃期)、14日後(傾穂期)の3回防除が斑点米カメムシの被害防止に重要**となるため、必ず実施しましょう。

【出穂】とは…

止葉から穂の一部が出た状態

【出穂期】とは…

ほ場全体の40~50%が出穂した時期をいいます。

①粉剤体系 : 粉剤防除では防除効果をもとめるため、風の無い時間帯で、散布後3~4時間は降雨がない日に散布してください。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	トレバリダビーム粉剤 DL 【2成分】	4kg	7月13日~16日頃	出穂始め防除
2回目	いもち病、カメムシ類	ラブサイドキラップ粉剤 DL 【2成分】	3~4kg	7月24日~27日頃	出穂期7~10日後(穂揃期)
3回目	カメムシ類	キラップ粉剤 DL 【1成分】	3~4kg	7月31日~8月3日頃	出穂期14~17日後(傾穂期)

化学合成農薬成分の数です。

②粒剤体系 : 粒剤防除は一人で散布でき、粉剤のような飛散(ドリフト)が少ないため、市街地等でも散布ができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	イモチエースキラップ粒剤 【2成分】	3kg	7月5日~7日頃	出穂期10~12日前頃 (散布後4~5日の湛水)
2回目	カメムシ類	キラップ粒剤 【1成分】	3kg	7月24日~27日頃	出穂期14~17日後(傾穂期) (散布後4~5日の湛水)

③液剤体系 : 液剤防除は散布に労力はかかりますが、安価なため、コストを抑えることができます。

	病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	散布時期	摘要
1回目	いもち病、紋枯病、カメムシ類	ビームエイトレボソブル + バリダシン液剤5 【2成分】	650倍・100L 1000倍・100L	7月13日~16日頃	出穂始め防除
2回目	カメムシ類	キラップフロアブル 【1成分】	1000~2000倍 ・60~200L	7月24日~27日頃	出穂期7~10日後(穂揃期)
3回目	カメムシ類	キラップフロアブル 【1成分】	1000~2000倍 ・60~200L	7月31日~8月3日頃	出穂期14~17日後(傾穂期)

5 随時防除

病害が発生した圃場には治療のため、前年に発生した圃場には予防のため、状況に応じて防除を実施しましょう。

病虫害名	薬剤名	散布量(10a)	摘要
いもち病	ブラシン粉剤 DL	3~4kg	【治療剤】病害の発生を確認したら直ちに散布(収穫7日前まで)
紋枯病	モンセレン粉剤 DL	3~4kg	【予防剤】前年発生地では出穂10~20日前に散布(収穫21日前まで)
稲こうじ病 墨黒穂病	Zボルドー粉剤 DL	3~4kg	【予防剤】常発地や種子生産地では出穂10~20日前に散布(出穂10日前以降は薬害の恐れがあるので散布しない)